

## 【第1分科会】

### 災害時・緊急時における多職種連携教育

講師 佐藤 沙織 氏

#### プロフィール

##### 【略歴】

2013年 日本赤十字秋田短期大学 介護福祉学科 講師

##### 【災害支援経歴】

2011年 東日本大震災 宮城県陸前高田市

2019年 令和元年度台風第19号 石巻市

2024年 能登半島地震 金沢市

令和6年7月豪雨 酒田市

令和6年度 全国教員研修会 分科会 災害介護教育  
～災害時・緊急時における多職種連携について～

## 介護福祉士養成における災害時の多職種連携

令和6年10月25日  
日本赤十字秋田短期大学  
介護福祉学科 佐藤沙織

# 内 容

1. 本学の防災関連科目
2. 防災福祉論 演習概要・沿革
3. 防災福祉論 演習内容紹介 －在宅・指定避難所・施設－
4. 防災福祉論 演習内容紹介 －施設－
5. 実演を通して気づく連携の必要性
6. 防災福祉論を全体を通しての学び
7. 防災福祉論展開から考える災害時多職種連携
8. 本学における災害時多職種連携教育の今後

# 1. 本学の防災関連科目・行事

## ■防災基礎 15時間（2年次前期）講義

- ・災害の基礎的知識、時間経過・ライフライン停止時の介護支援 等

## ■防災福祉論 30時間（2年次後期）演習

- ・災害想定：グループワーク、ロールプレイ（1年次生避難者役で参加）

## ■その他

- ・防災ボランティア演習（避難所設営、ハイゼックス使用炊き出し等）
- ・赤十字救急法
- ・赤十字生活支援法（災害時の支援）
- ・災害救護訓練（全学：トリアージ（看護学部）、搬送、応急処置）

## 2. 防災福祉論 演習概要・沿革

年号	発生した主な災害	想定災害種類	主な内容、設定
平成22年 (2010) 災害福祉論 開講 平成23年 (2011) ～ 令和3年 (2021)	東北地方太平洋沖地震 (東日本大震災) 熊本地震 大阪北部地震 北海道胆振東部地震	地震	在宅・指定避難所・施設での支援
令和4年 (2022)	宮城・福島地震	風水害	施設内訓練（垂直避難、避難先支援）
令和5年 (2023)	秋田県豪雨災害		施設内災害時支援（垂直避難、避難先支援）

### 3. 防災福祉論 演習内容紹介 －在宅・指定避難所・施設－

#### 地震

M：7.8 震度：6強 季節：冬 発生時間：13時

**条件・立場**：要援護者リスト（在宅：10名、施設利用者10名）への支援  
災害状況と課題検討上の条件設定（場所、被災状況、ライフライン、立場と役割）  
在宅（訪問介護事業所管理者、訪問介護員 他）：発災時の支援、避難誘導  
指定避難所（日赤介護チーム）：指定避難所受け入れ、支援  
施設（施設職員、日赤介護チーム）：福祉避難所としての支援

#### グループワーク

- 在宅、指定避難所、施設それぞれの状況に即して以下の内容を検討
- 災害時の備え
  - 介護福祉専門職の役割
  - 具体的支援内容
  - 施設グループは介護過程の展開
  - ロールプレイ計画表に基づきシナリオ作成

#### ロールプレイ（+評価）

## 4. 防災福祉論 演習内容紹介 －施設－

### 風水害

ハザードマップの想定を上回る激しい豪雨により内水氾濫発生  
屋内安全確保（垂直避難）の実施

条件・立場：施設利用者への支援（20名前後）

施設職員

### グループワーク

- 風水害対策計画の策定  
災害対策の基本方針、リスクの把握、平常時の対応、ライフラインの確保  
備蓄内容、他機関との連携、地域との連携
- 災害発生時の対応  
職員招集、物資移動、搬送方法、安否確認、家族への連絡など
- 避難先での支援（体調不良、特別食、寒さの訴え、尿意・便意、空腹）
- タイムライン・ロールプレイ計画表に基づきシナリオ作成

### ロールプレイ（＋評価）

# 5. 実演を通して気づく連携の必要性

学生の振り返り

連携のため必要なこと

利用者・避難者に関すること  
(支援対象者)

- 情報があってもそれを共有できないと適切な支援につながらないと思った
- 共有して把握していないと、二度手間になり、支援が必要な人に負担をかけてしまうと思う
- 情報の大切さがわかった。要領よく報告することが難しかった
- 一人での情報収集は不安だった

情報共有

自分が担う役割に関すること  
(支援者自身)

- リーダーだったが、うまく行動できなかった。状況を把握するのに精いっぱいだった
- どこに向かうべきかわからなくなってしまった。きちんと自分の役割を把握しておくべきだった。役割分担の大切さがわかった
- ボランティアの人に何を願うのか、どう行動してもらうか伝えるのが難しかった

役割の理解

チームワークに関すること  
(他者、他職種)

- 自分の役割が完了したあとは、指示がなくても別の係を助けることができた
- 混乱してしまって、自分の役割で手一杯だったが他のメンバーが気づいて対応してくれた
- 計画通りにいかず焦ってしまったが、皆で協力してなんとか搬送できたと思う
- それぞれの場所で行動していても、チームであることを実感した

機転・補完  
連携の継続  
他者への信頼

## 6. 防災福祉論全体を通しての学び

### 平常時の支援が災害時の支援につながる

#### 生活支援技術

災害時こそ安全かつ円滑な動作  
不安を軽減し寄り添う  
限られた物資を工夫する  
できるだけ情報を引き出しアセスメントする 他

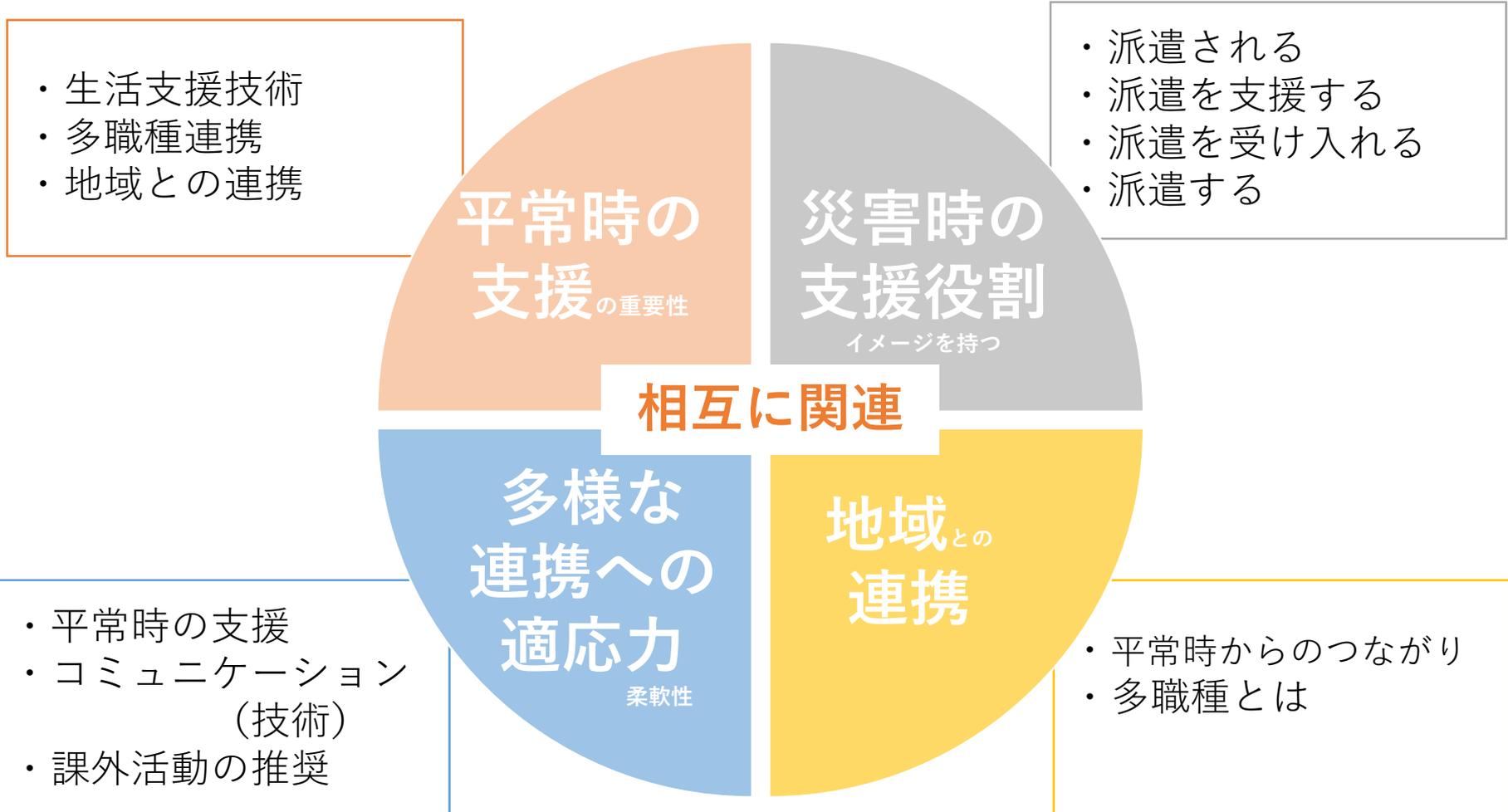
#### 多職種連携

連携できなければ支援を必要としている人の苦痛となる  
コミュニケーションの重要性  
確認、報告、連絡、相談の重要性 他

#### 地域との連携

在宅：近隣住民、民生委員、他サービス事業者、警察、消防機関  
指定避難所：避難所運営職員、ボランティア団体責任者、他職種派遣チーム  
施設：施設職員（他職種）、地域住民、近隣施設・事業所、  
各企業・業者、医療機器業者、ボランティア 他

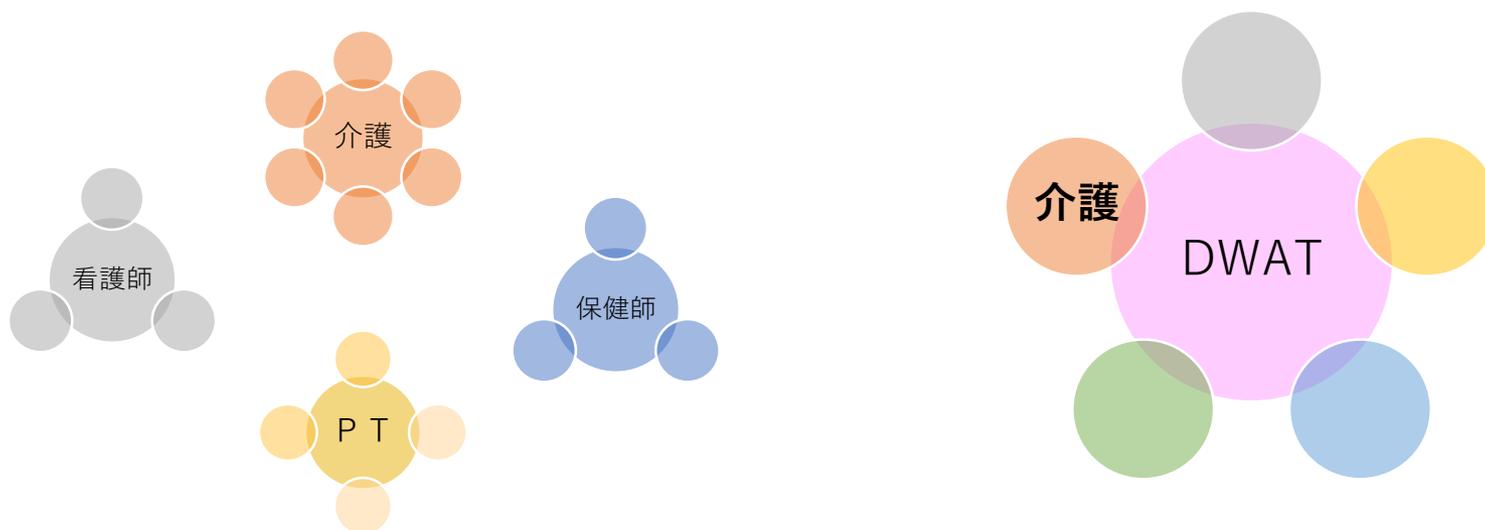
# 7. 防災福祉論展開から考える災害時多職種連携



## 8. 本学における災害時多職種連携教育の今後

### 災害時の多職種連携状況は多様

- 場 面：施設・事業所、指定避難所、仮設住宅、D W A T その他  
形 態：専門職同士でチームとなり他職種と連携、他職種でチームとなり連携  
招 集：所属が同じ、所属が異なる  
立 場：統括、リーダー、メンバー ※立場や役割は日によって変わることもある





日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

生きるを支える人になる。

ご清聴ありがとうございました